

○課題文について

内山節「崩れゆく市場と国家の秩序からの解放 それぞれの“生きる場”を求めて」。岩波書店の雑誌『世界』2015年12月号所収論文からの抜粋である。

近代化やグローバル化における“光と影”については盛んに論じられており、高校生が小論文に取り組むにあたって定番の課題であろう。課題文は、近代化やグローバル化の“影”の部分に対する意識や行動に社会の変革の萌芽をみている。そうした筆者の主張に正面から向き合い、自ら経験したり、見聞きしたり、本を読んだりしたことを生かしながら論じられるかを見ることができると考え、課題文を選んだ

**問1** 下線部①について。「社会変革」という言葉を使うとき、これまで社会理論は誤った認識をもっていた」と筆者は考えている。筆者はなぜそう考えているのか。(100字以内)

【出題の意図と評価のポイント】

読解力を問う問題である。課題文の冒頭の「これまでの社会理論の考え方」に対し、著者が強く主張している「変革主体の意識」が重要であるという本論文のオリジナルとも言える主張をきちんと読み取れるか、ということである。

【講評】

基本的には、直下を要約すればよく、ほとんどの解答が8割とれていた。

「矛盾が変革」をうながす「社会の構造的理解」は誤りで、常に「変革主体の意識」が主導すると断定している答案があったがそれは減点した。

**問2** 下線部②について。「農村を基盤にした都市のネットワークをつくる」とは具体的にどうということか。あなたの知っている事例、またはあなたが考えたことからひとつあげなさい。なお必要なら、「農村」を「農山漁村」に、「都市」を「都市住民」と読み替えてもかまわない。(100字以内)

【出題の意図と評価のポイント】

課題文中できわめて魅力的な主張ではあるが、「都市のネットワーク」が難しいと思われる、設問で「都市」を「都市住民」と読み替え」てもかまわない、とした。

最も重要なポイントは、このネットワークについてどれだけ書けるかということであった。

【講評】

農村と都市がつながるだけでなく、都市住民の組織化など都市のネットワークまで行われることがある、ということを実例をふまえて書ければほぼ満点である。

「地域おこし協力隊」をはじめ、都市から農村への移住者を挙げている答案は多かった。

彼らがただ地域で活動する事例をあげるだけであれば、都市のネットワークとしてはかなり弱い。そこまでだと減点とした。

**問3** 下線部③について。「だが現在では、国家も市場経済も、さらには個人の社会としての市民社会も限界をあらわにしている」とある。その限界を超えるために筆者はどのような道筋を描いているか、必ず「飽き」という言葉を入れて（「飽き」「飽きる」「飽きた」「飽きて」などのうち、最低一つを使えばよい）、まとめなさい。

その上で筆者の描く道筋について、あなたは「否定的にとらえる（反対）」か、「どちらともいえない」か、「肯定的にとらえる（賛成）」か、を明らかにし、そうあなたが考える理由を論述しなさい。（600字以内）

**【出題の意図と評価のポイント】**

下線部③には、課題文全体の筆者の主張がこめられている。それを正確に理解し、要約ができるか。その主張について、受験生自身の賛否などを明らかにし、その理由を論理的・説得的に記述できるかをみた。

**【講評】**

筆者の論旨をきちんとまとめたものの、その後の意見や具体的事例が、筆者の論旨をふまえて論じられていない答案が数多く見られた。

例えば、要約後、肯定的にとらえた上で、筆者のいうところの「雨後の筈」について自分の知っている事例をあげるだけの答案（なお事例については設問で要求してはいない）、もしくは自分の知っている概念を勝手に結びつけるなど、要約とかみあわせられていない。このような答案に高得点を与えていない。